

平成30年度第2回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 平成30年10月11日(木)

午後3時から午後4時30分

場 所 市民総合福祉会館第1談話室

出席委員 齋藤和利委員、花園隆委員、薄葉良委員、中村和博委員、中村伸一委員、
飯箸悠介委員、稲井陽一委員、若菜貴委員、櫻井隆雄委員、鈴木清委員

1 開会

2 まなび支援センター所長挨拶

3 協議

- ① 管内の青少年の現状について
- ② 平成30年度まなび支援センター青少年指導関係活動中間報告
- ③ 情報交換
- ④ その他

〔事務局から説明〕

それではこれから協議に入りますが、本日、吉田会長が所用により欠席されておりますので、木更津市まなび支援センター管理規則第3条第4項の規定によりまして齋藤副会長に議長をお任せいたします。齋藤副会長よろしくお願いいたします。

〈齋藤副会長〉

それでは協議に入りたいと思います。協議事項①といたしまして、管内の青少年の現状について、各委員のお立場からお話をうかがいたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

〈花園委員〉

木更津東高校は比較的今は落ち着いた状態です。大変だった時期もありましたが、今のところは落ち着いているという感じです。今後ともご迷惑をおかけしないでいられればと思っております。

〈薄葉委員〉

9月の下旬に交通安全運動が実施されたということで、高校でも特に自転車の通学に対して、歩行者を含めて重点的に指導いたしました。ただ、どうしても自転車の乗り方のマナーが悪いという連絡が学校に入ってきます。2列3列で並んで自転車に乗っているとか、あるいは、押している時でも、広がって非常に危ないというような指摘もござい

ます。幸いにも、まだ、大きい事故になってしまったというケースはないですが、やはり、年間をとおして、交通ルール等を含めて話をしていかなければいけないというのが現状でございます。もう一点、SNSに関しては、高校生くらいになると比較的落ち着いてはいますが、まだ、ネットパトロール等で、個人情報の掲載という部分で何件か学校にも連絡をいただく時があります。インターネット上のことは把握できない部分も多いですが、今のところは大きな問題となるような情報は入ってきておりません。

〈中村(和)委員〉

昨年1年間で虐待の相談を受けた件数のうち、全体の3分の1程度が木更津市の相談件数になっていますが、ここ3年4年同じなのは、子どもに夫婦喧嘩をみせてしまうというような、子どもにとってすごく心が痛い、心理的虐待が多く、全体の半分程度の扱いになっています。それから、ぐ犯ケースが少しその前の年と比べて減った印象はあります。逆に、学校からの相談は少し増えている印象を受けています。そのあたりは連携していきたいと思います。

〈中村(伸)委員〉

保育園には、虐待の関係ですと、報告は受けているところですが、特に暴力ですとかそういうことには至らず、特に大きな問題は起こっていない状況でございます。それから、保育園では、今、外国籍の方もいるなかで、様々なケースが想定されますので、関係機関と今まで以上に連携を密にしていかなければいけないと考えております。

〈飯箸委員〉

虐待の関係については、先期中村和博委員がおっしゃったとおり、心理的虐待の件数は増えてきております。この協議会とは別の要保護児童対策地域協議会においても、児童相談所や市の方を含めて情報共有を図っておりまして、必要な案件についてすぐ対応できる体制は今取れつつあると思います。非行の関係については、件数的には昨年と大きく変動はないですが、14歳未満の小学生による万引きが増えていて、触法少年としてその都度、児童相談所に通報させていただいております。14歳以上未成年の少年犯罪については、特別大きな事案を起こしているということではありませんが、有職少年や無職少年により変なグループ形成がされています。今までは、小中学校の先輩後輩のつながりが多かったと思いますが、SNSで知り合った仲間同士で計画して悪いことをする少年グループが乱立しています。どうしてこの子とこの子が知り合いなのかという子ども達と一緒に悪さをする現状が今日立っております。子ども達の行動範囲が広いので、警察署間でも連携を強化しております。

〈稲井委員〉

少年事件は大きな10年単位で見れば激減してしまっていて、木更津でも全国的な流れと同様に減っています。齋藤副会長から、青少年補導員のパトロール時に、昔に比べて子ども達をみかけなくなったという話もありましたが、深夜に集まって補導を重ねて非行に至ってという子もいれば、なんで非行をしたのというような真面目な子が非行に走っていたり

する。いろいろな子ども達がありますが、飯箸委員からあったように、いろいろな地域の子ども達がSNSでつながっていくというのは、不思議な印象を持っています。

〈若菜委員〉

以前は、どこかしの学校で問題を抱えているということが聞こえてきましたが、最近はこの学校も皆落ち着いている印象です。ただ、やはり、SNSのトラブルが多々あるようには聞いています。

〈櫻井委員〉

各学校落ち着いているという意見がPTAのなかでもありまして、悪い子が少なくなってきたという話は出ています。木更津市では、4時半になると、子ども達は帰りましょと放送を流していますが、5時のチャイムは必ず家で親と聞きましょうということが約束だったりしますので、非常にありがたいことだと思っています。

〈鈴木委員〉

子ども会では、4月に植えた稲の刈り取りを8月の下旬にし、10月6日には、駐車場から1キロくらい離れている田んぼまで、皆でゴミ拾いをして、畑のサツマイモを掘って、それを集会所まで持ってきて、収穫祭ということで採れたイモなどを食べました。いろいろ体験実習ということで親子で延べ120～130人の参加がありました。2月には、金田漁業協同組合による海苔すき体験の計画を立てています。

〈齋藤副会長〉

青少年補導員連絡協議会では、千葉県と木更津市との共催によりまして、県下17市の青少年補導員が毎年一堂に会する大会を、9月29日にかずきアカデミアホールにて17年ぶりに開催いたしました。各市から多くの方々にご参加いただき、「ネット社会に生きる子ども達、子どもをいじめや犯罪の被害者、加害者にしないために」と題した記念講演も、大変ご好評いただきました。関係機関の方々にもご臨席賜り、無事終えることができました。この場をお借りいたしまして改めて御礼申し上げます。

SNS等々の問題がいろいろ出ておりますが、子ども達は、単純に我々がみているはんちゅうだけでは確かに街頭にはいません。SNSを使って他市や他県まで出かけて遊んでいます。市内の各団体の方々にご協力いただいておりますが、他市とも協力し合いながら、いろいろなかたちで見守り活動をしていかないといけないと思っています。SNSは、我々が子どもの頃にはなかったツールですので、今後のツールとして、いい意味で使っていただきたいと思っています。

貴重なお話ありがとうございました。各委員からのお話についてご質問等ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

〈櫻井委員〉

SNSのつながりで子ども達が市をまたがって一緒になってということですが、それは暴走行為を伴ったりするものもありますか。

〈飯箸委員〉

暴走行為を伴う場合もあります。今、この上総地区では、暴走族というチームを宣言しているのは1チームくらいしかありませんが、それ以外の子達と一緒に暴走していて、その子達が他署管内の子達であったりというのが実際ありますので、市をまたいで暴走行為をしているという印象です。暴走行為をしている子達もそうですが、いい意味でツールとして利用している少年達もたくさんいて、今日何時からどこどこでバスケットやりますから集まりませんか、とって新しい友人関係をつくるような子達もいる。そうやって同じ趣味、共通の話題、関心のあるところが一緒なだけでつながる。いいところでもあり、使い方を誤ると悪いツールにもなると思います。

〈櫻井委員〉

特定名称がついていて暴走行為をするというのが昔の暴走族だったわけですが、今はネットで人数集めて、今日どこそこ走ろうよというものなんですか。

〈飯箸委員〉

今は、暴走行為をしようといって集まる子達はほとんどいないです。結果的に暴走行為になっているかもしれませんが、暴走族というグループがしっかりとしていれば、この子はどここの暴走族のグループの誰々だというように把握ができるんですが、実態を把握するのが非常に難しく予測もできません。よく他機関から、こういう少年のグループを把握していませんかと問い合わせがありますが、どこまでがグループの範囲になるのかというと、一概にいけない状況になっているのが実状です。

〈齋藤副会長〉

暴走族という集団があって、ちょっとしたいさかいがあって、というのが昔からよくテレビとかでもありましたが、そういった状態ではなく、ちょっとした知り合い同士が集まって、というような感じですか。

〈飯箸委員〉

つながりが緩い感じです。今、大人の世界でもあるように、インターネット上で呼びかけて、一つの同じ目的を持った人がただそれだけで同じ場所に居合わせるような、緩いつながりです。暴走族は、今、確かに、あるにはありますが、その暴走族になっている子達にしても、馴れ合いのような集団で、暴走族のヘッドがいて、その部下達がいて、というものではないです。

〈櫻井委員〉

実態がないというのは怖いですね。

〈飯箸委員〉

このあたりで走っているからこのあたりの子達かというところでもないのが実状です。

〈齋藤副会長〉

他にはいかがでしょうか。特にはございませんでしょうか。

千葉県内では、市の境界を越えて、青少年補導員が近隣合同パトロールということでお

互いに協力し合いながら、隣接地点の補導活動をしている市もあります。木更津の場合には市内ですが、市の域を超えた子ども達の交流が多いようですので、隣接する地区、学校区同士が合同で実施することもこれからは必要ではないかと思います。

P T Aでは市の域を超えての交流はありますか。

〈櫻井委員〉

四市の場合だとママさんバレーです。会長は四市会があって交流がありますが、本部役員だとか各単位P T Aになってしまうと四市での交流はないに等しいと思います。

〈若菜委員〉

1年に1回、地域のつどい君津地区大会というものがありますが、それが今週の14日の日曜日にあります。君津地区の四市が合同で実施するイベントですが、そういったところでの交流機会があります。

〈花園委員〉

君津地区の四市が多く市原市は少ないので横のつながりはそれほどありませんが、情報は入りやすいです。

〈薄葉委員〉

生徒指導関係では、君津四市情報交換会と市原市の中学校との情報交換会があります。

〈齋藤副会長〉

高校生になると市内だけでなく他の市からも学校に集まってくるので、SNSなどを使わないと連絡が取れなかったりするかと思います。スマホを便利に使ってもらって、それが間違った方向に行かないように願います。

では続きまして、まなび支援センターの青少年補導員活動中間報告について事務局から説明願います。

〈岡崎所長〉

平成30年度木更津市まなび支援センター青少年指導関係活動中間報告

〈齋藤副会長〉

それでは、それぞれの委員のお立場から只今の報告へのご意見等ございましたらお願いいたします。

特にはございませんでしょうか。センターの運営につきましては皆様からのいろいろなご意見をいただきながら実施していただければと思います。

続きまして、情報交換ということで何かありましたら願います。

〈櫻井委員〉

年に1回講師の先生を呼んで研究集会をしていますが、今年は、障害者の児童の方々に1週間に1時間だけ、いろいろなところに行って就業体験をさせるという、ふれジョブという組織がありまして、全国ふれジョブ協議会の代表世話人の方に講話をしていただきました。このふれジョブの西先生がおっしゃるには、その子達が、例えば、町の中で、お年寄りに声をかけたりですとか、そういったことをすることによって、町の潤滑剤になって、

皆でいい社会をつくっていこうという意識改革につながるということでしたので、今後、特別支援の先生方ともいろいろお話をし、そういった社会をつくれるよう、木更津市内でも小さいことから始めていきたいと思いました。

〈齋藤副会長〉

私も聞いておりました、ボランティアの方が何年かずっと子どもに付き添っていて、その方がご高齢になって認知症で徘徊するようになってしまった時に、たまたま、その当時、一緒に付き添っていた子どもがその方を見つけて、どうしたのと逆に付き添ってくれたという話で、子どもはそういった意味で、いろいろなかたちで社会の役に立って、知らないうちに町の潤滑剤になっていたりする。広島の水害の時もそうでした。

〈櫻井委員〉

広島の水害の時に、お年寄りの方の家にお世話していただいたからということで、おばあちゃん一緒に出ようという、一緒に非難して助かったということもあったようです。

〈齋藤副会長〉

弱者がいるということは、フォローをしないといけない。お互いの助け合い、共助というところが一番大事なところだと思います。

情報交換ということですが、他に何かございますでしょうか。

それでは、その他といたしまして何かございますか。

ないようですので事務局にお戻ししたいと思います。

〈事務局〉

貴重なご意見をいただきありがとうございました。これらの意見を参考にしながら、まなび支援センターの事業もすすめてまいりたいと考えております。

次回第3回の運営協議会につきましては、2月21日の木曜日15時から同じ会場を予定しております。それでは、以上をもちまして本日の会を閉じたいと思います。ありがとうございました。